

警察庁によると、2019年の行方不明者の届け出数は8万6933人で前年より減少しました。しかし、その中でも行方不明になる認知症の人は増え続けています。その数は1万7479人で過去最多になりました。

認知症による行方不明者を守ろう

認知症による行方不明者は、早期に発見されるケースがほとんどですが、中には徘徊かいして体調を崩したり、事故に遭うケースも散見されます。早期発見の方法としては、「G

PS機能付き携帯電話」を持たせること、「GPS端末」を活用すること、「みまもりあいアプリ」を利用することなどが有効と考えられます。

そのほか、自治体などから認知症による行方不明者について情報発信された時には、地域全体で高齢者への見守りに努めましょう。様子がおかしいと感じる高齢者を見かけたら、すぐに警察等に通報しましょう。

防犯一口メモ